

## わたしは「鶴見人」

Key words グローバル化、多文化共生、多様性、ハイブリディティ

## 1 活用する主な展示および資料

- 展示映像「国内で活躍する日系人インタビュー」(安富祖美智江氏)
- 展示「法制度の変遷をたどる」「現在そしてこれから」
- 展示資料「南米への移住者募集ポスター」
- 展示「移住地の開拓(イグアス移住地)」三面映像

神奈川県横浜市鶴見区在住  
安富祖 美智江氏

## 2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科(公民的分野)・総合的な学習の時間
- 全4時間(事前1時間、見学2時間、事後1時間)



## 3 目標

- 国境を越えた人々の移動について、ポスターや統計資料などを通して、歴史・法律・経済など多様な視点から理解することができる。【知識・技能】
- インタビューの視聴を通して、その人の背景に関心を持って、どのようなアイデンティティを持っているかを想像し、表現している。【思考・判断・表現】
- 多文化共生社会を実現するための活動に気づき、身近な地域にある同様の活動を探し、その活動を紹介することで多文化共生社会づくりに関心を持つ。【主体的に学習に取り組む態度】



## 4 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

事前学習として、1920年代の日本における南米への移民を募集する広告と、1980年代以降のブラジルにおける日本での就職をリクルートする広告を観察することを通して、人々が古くから国境を越え、グローバルに移動してきたことを知り、移動する人々の背景に関心を持たせる。そして、日本からブラジル、ブラジルから日本への双方の人の移動を、統計資料からグラフに加工するなどして考察する。以上の活動を通して、資料館見学までに自分の問いを持つ。

資料館では、自分の問いの答えを探す班と、「国内で活躍する日系人インタビュー」(安富祖美智江氏)を視聴する班に分かれる。そして、安富祖さんが自らのことを「鶴見人」と呼んだ意図を図に示して考え交流することで、「日本人」でも「ブラジル人」でもないとするディアスポラ性やハイブリディティについて理解する。資料館の展示から移動する人々の背景を、歴史や法律、経済など多様な視点から理解する。

事後学習では、ABC ジャパンのHPから安富祖さんの多文化社会を支える活動をさらに理解する。可能であれば、身近な地域で、多文化を背景に持つ人々を支える活動を調べて訪問することをお勧めしたい。一人ひとりの人権が尊重される多文化共生社会を実現しようとする人々と出会うことで、関心を持ち続けることができるだろう。公民的分野の現代社会の多文化共生社会で取り組むことができる。

## 5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>2つの広告(A・B)からわかることや疑問を書き出そう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鋤を握りしめている。開墾？</li> <li>● 海外興業株式会社って何？</li> <li>● ホテル、弁当屋、パン工場が人手不足？</li> </ul> </li> <li>①日本からブラジルへ移住した人、②日本に住むブラジル人の数をグラフにしよう。</li> <li>2つのグラフから気づいたことを出し合おう。 <ol style="list-style-type: none"> <li>● 24万人余りの日本人がブラジルへ行った <ul style="list-style-type: none"> <li>● 太平洋戦争中は日本から移住する人が途切れている。</li> </ul> </li> <li>● 1990年から日本へ来た人の数が増えている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2008年と2011年以降の減少の原因は何だろう？</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループでできるだけ多く書き出し、内容が重ならないようにグループごとに発表させる。</li> <li>● 次頁のグラフを用いても良い。</li> <li>● 疑問の答えを資料館の中で探すことを伝える。</li> </ul> <p>広告資料 (P.17) 統計資料 (P.16・17)</p>
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> <li>安富祖美智江さん（日系ブラジル人）のお話を聞いてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1990年ブラジルから父のすすめで来日。当初国際電話の代理店の仕事をしていて、ポルトガル語が話せるので教育のことなど相談されるようになり、ABCジャパンを設立。外国人と日本人が一緒にがんばっている。</li> </ul> </li> <li>「鶴見人」と答えた安富祖さんの意図を想像して図や絵にしてみよう。</li> <li>展示物から事前学習での問いの答えを探してみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>● Aは1925年頃の南米への移民を募集する広告</li> <li>● Bは人手不足でブラジルで労働者を募集する新聞広告</li> <li>● 「法制度の変遷」を見ると、1990年6月出入国管理及び難民認定法が改定され「定住者」という就労活動に制限のない在留資格が創設され、中南米からの日系人およびその配偶者などの入国が容易になった。</li> <li>● 鶴見区以外にも大泉町や浜松市のような日系ブラジル人が集住するコミュニティがある。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 視聴のポイント いつ、どこから、どんな目的で来日したか。ABCジャパンの設立と成功の秘訣。</li> <li>● 日本人でもブラジル人でもないアイデンティティを図や絵で表現する。ディアスポラ性、ハイブリディティが見える。</li> </ul>
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の在留外国人の推移を見てみよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルの順に多い。</li> </ul> </li> <li>ABCジャパン（横浜）の活動をHPで読み、紹介しよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルに加え、中国、フィリピン、ネパールなどから来た子どもが集まっている。</li> <li>● 日本語を学び、高校進学に向けた勉強ができるフリースクールである。</li> <li>● 自分のルーツを持つ国の言葉と文化を学ぶ教室もある。</li> <li>● 自分のアイデンティティとどう付き合うか考えられる場でもある。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ABCジャパン HP </li> <li>● 多文化共生支援団体リスト </li> </ul> <p>地元で多文化共生社会づくりに貢献しているNGOを訪ね、活動内容を知りたい。</p>

## 6 学習後の姿

グローバル化する社会の中で人々は国境を越えて移動し、私たちは多様な人々とともに暮らしている。そのことに意識的になり、一人ひとり異なる背景があることを前提にしつつ、さまざまな移動する人々の背景も、歴史、法律、経済など多様な視点から理解しようとする。そして、身近な地域で多文化社会を実現する人に出会い、多様な人々を受容し尊重できる社会づくりに関心を持ち続ける。

## 7 授業づくりのための参考資料

- ブラジル移民の100年(国立国会図書館)
- 開発教育研究会(2023)『日本ではたらく外国人』『身近なことから世界と私を考える授業III』明石書店

